

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズボンドえぎら			
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		～	2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	2026年1月5日		～	2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 2日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別の安心できる場所の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーテーションで空間を区切ったり、ロッカーを間仕切りとして使ったりしている。</li> <li>・高さの異なる机を自由に組み合わせたり移動したりして居場所作りをしている。</li> <li>・聴覚過敏の児童が刺激をリセットできるように静養室や学習室を利用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静養室と学習室を時間を区切り順番に使用したり、作業訓練の場として使ったりして有効活用をする。</li> </ul>
2	個々の特性や好みに合わせた活動の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント、タブレット、パソコンなどを用いて個別課題の工夫をしている。</li> <li>・興味に合わせた制作や手先の巧緻性を高める活動を取り入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達検査結果や学校の情報を共有し保護者のヒヤリングや行動観察の記録化をする中で得意と苦手を分析する。</li> <li>・強みを課題に活かす支援をしている。</li> </ul>
3	自由・余暇活動の充実。自分らしく楽しく過ごせる場所の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好みや意欲を大切にリクエストデイを設けて子どもの意思を尊重した活動を取り入れている。</li> <li>・利用児童が夢中になれることを大切に「やりたい」をより伸ばすための手だてや材料、方法を職員で話し合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にお子様と保護者のアンケートを実施し、リクエストに応える。</li> <li>・経験を増やす活動(季節にちなんだイベント)を企画。地域イベントへの参加したり、地域の方を招待したりして多様な人との関わりをする。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	手厚い支援が必要なニーズの高い児童への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の特性・体調・情緒の「その日の変動」を踏まえた支援の判断基準(観察項目、対応手順)が職員間で統一されていない。</li> <li>・支援方法が個人の経験に依存しやすく、対応の再現性が低い。</li> <li>・緊急時(強い不安、他害・自傷、パニック等)の対応計画が</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内専門職によるスーパービジョンを受け、児童ごとの支援方針を確認する。</li> <li>・児童ごとに「観察→支援→振り返り」の簡易チェックリスト(例:トリガー、前兆サイン、効果的な声かけ、環境調整)を整備する。</li> <li>・危機対応(クールダウン、避難導線、保護者連絡基準)の</li> </ul>
2	教育機関、地域医療の連携が不十分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・医療と共有する情報(目標、手立て、配慮事項、通院状況等)の様式がなく、交換が属人的になっている。</li> <li>・ケース会議が「特別な事例の時のみ」で、定期的な連携の機会が確保されていない。</li> <li>・連携に必要な同意(保護者同意の範囲、共有方法)が決められていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・医療に共有する連携シート(統一様式)を作成し、個別支援計画の目標と紐づけて運用する。</li> <li>・定期的なケースカンファレンスを設定し、議題を「目標の統一」「支援手立ての整合」「困り感の早期共有」に固定する。</li> <li>・進学・卒業時は移行会議(学校・家族・関係機関)を提案し、開催時期(例:2~3か月前)と目的を明確にして働きかける。</li> </ul>
3	ペアレントトレーニングなど家族支援が不十分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員のペアトレ実施経験や手続き(アセスメント→目標→介入→フォロー)の理解が不十分で、家族支援が継続支援になりにくい。</li> <li>・就労家庭が多く、来所型・集合型の実施が難しく参加率が上がりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修・専門職助言を活用し、職員が共通して使える短時間ペアトレ(10分程度×複数回)の進め方を整備する。</li> <li>・家族の負担を下げるため、オンライン/資料配布/動画など複数の参加手段を用意する。</li> <li>・必要に応じて家族参加型の研修会(テーマ例:ほめ方、指示の出し方、痲痺対応など)を実施し、次回フォロー(面談・連絡帳での確認)までを一連で行う。</li> </ul>